

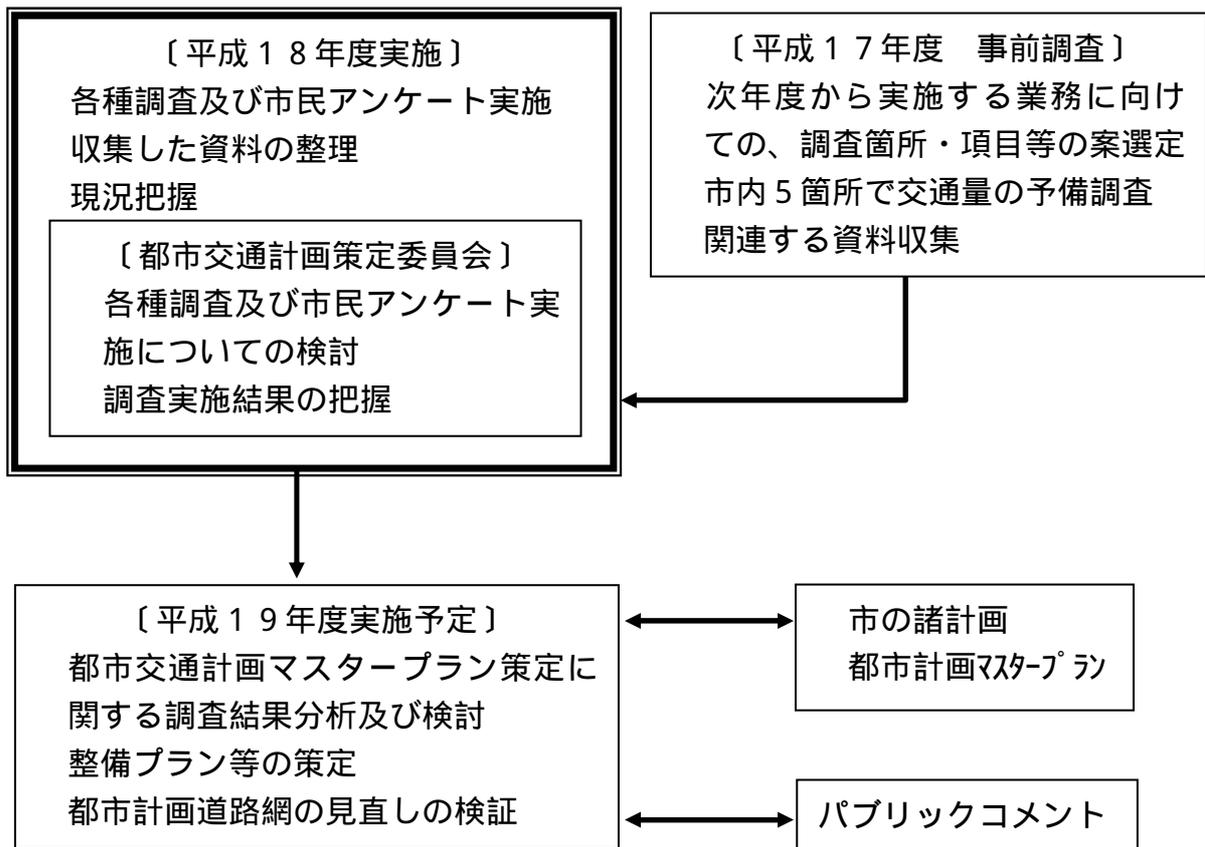
1 調査目的

登米市は従来から自家用自動車での移動に強く依存しており、中心市街地への通過交通の流入、合併後の地域・市民の交流の増加、近年の大型商業施設の立地に伴う市街地の拡大等をはじめ、平成 19 年度末には三陸縦貫自動車道登米 I C の供用開始が予定されるなど、交通状況は大きな転換期にさしかかっている。

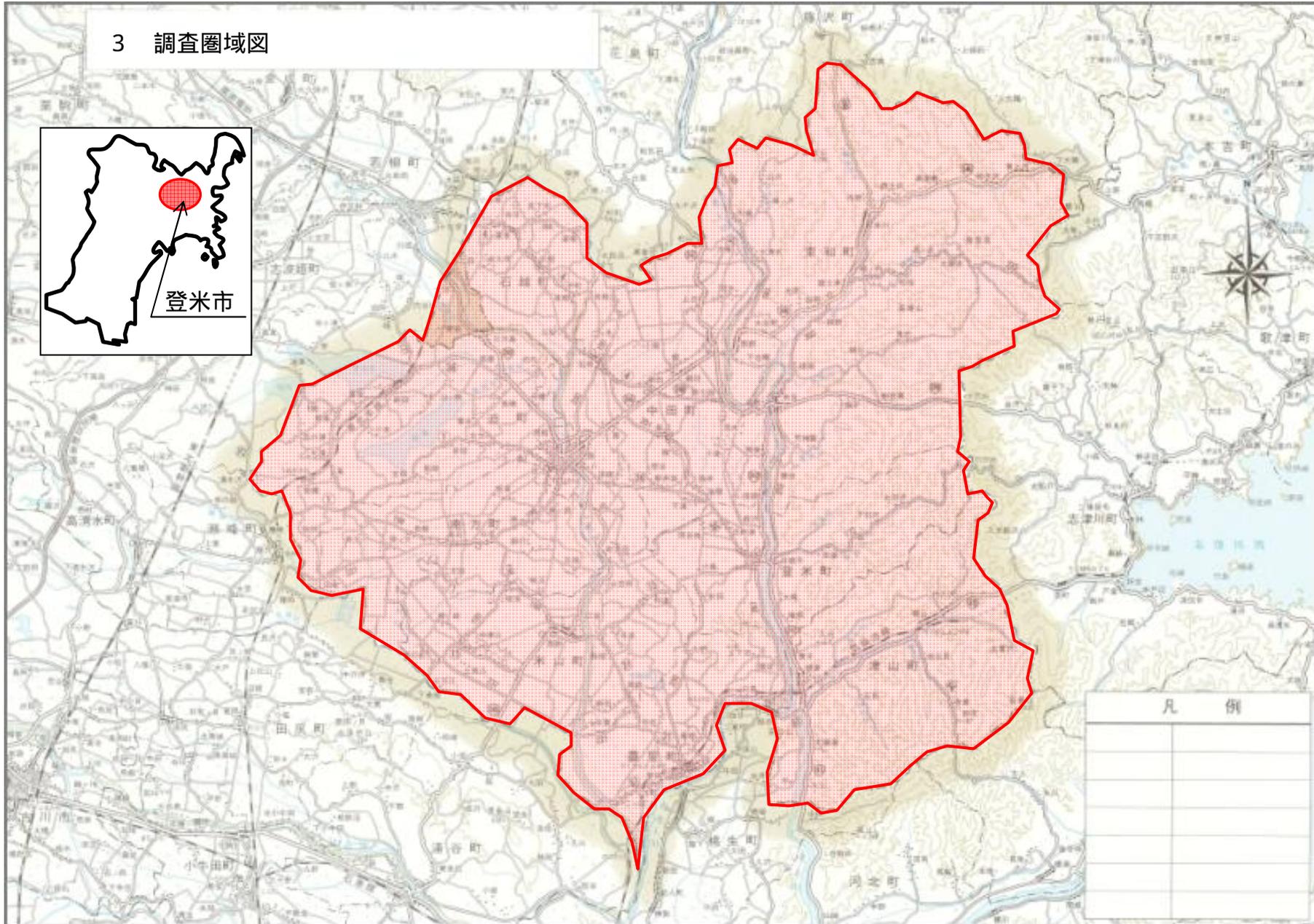
このような諸情勢の変化を踏まえ、本市では平成 18 年度と平成 19 年度の 2 力年でまちづくりの基礎となる道路整備や公共交通の連携、交通弱者安全対策等の方策を検討し、「都市交通計画マスタープラン」を策定するものである。

平成 18 年度は、計画策定の基礎資料を収集するため、各種交通現況調査や市民アンケートによる日常交通の利用状況等の調査を実施した。

2 調査フロー



3 調査圏域図



凡 例

凡 例	

4 調査成果

1) 調査項目

既存資料の収集

・登米市の現状把握

交通実態調査

- ・交通量調査（H17 センサス補完調査）
- ・渋滞長調査
- ・プローブ走行調査
- ・ナンバープレート調査

市民アンケート調査

2) 登米市の現状

人口と世帯

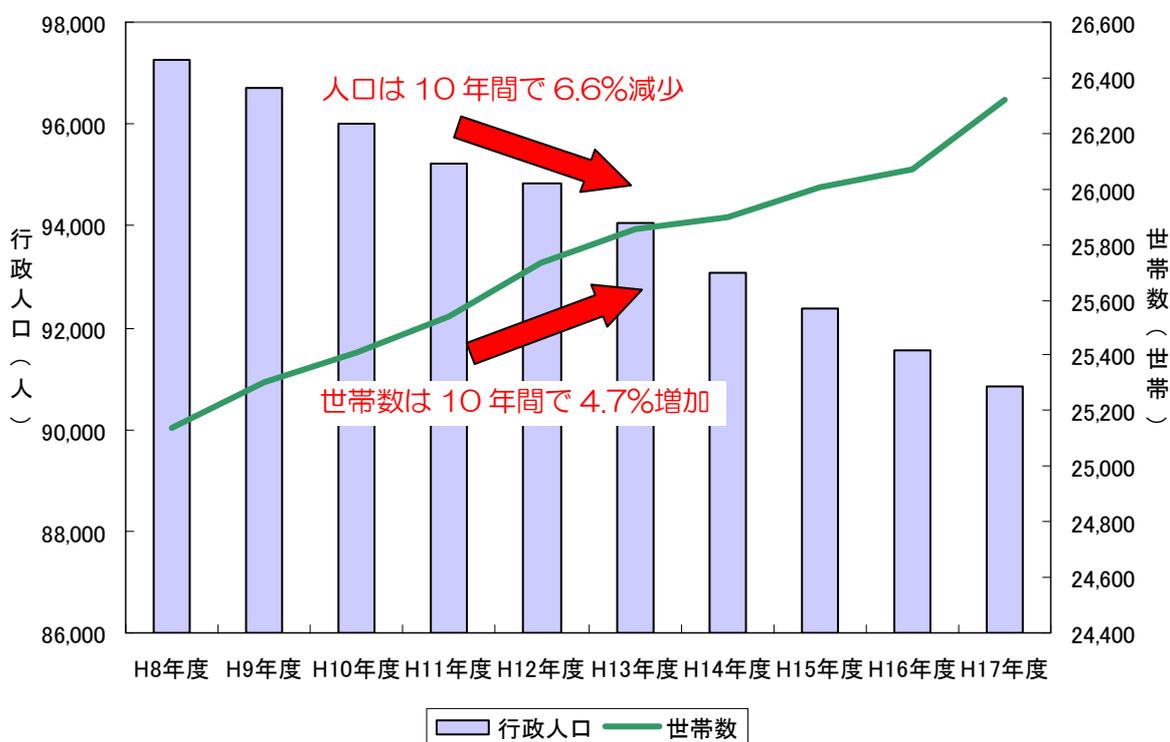
《人口減少・世帯数増加 核家族化進行》

・人口は10年間で6.6%減少しており、減少傾向が継続している。

（H7：約97,250人 - H16：約90,850人 = 約6,400人減）

・世帯数は10年間で4.7%増加しており、増加傾向が継続している。

（H7：約25,140世帯 - H16：約26,320世帯 = 約1,180世帯増）



資料：住民基本台帳

年齢別人口

《年少人口減少・老年人口増加 少子高齢化進行》

- ・平成17年の15歳未満の年少人口の構成比は13.2%
(H2: 約20,010人 - H17: 約11,797人 = 約8,213人減)
- ・平成17年の65歳以上の老年人口の構成比は27.5%
(H2: 約17,136人 - H17: 約24,579人 = 約7,443人増)
- ・平成17年の15歳以上65歳未満の生産人口の構成比は59.3%
(H2: 約61,084人 - H17: 約52,937人 = 約8,147人減)

登米市の年齢別人口構成比

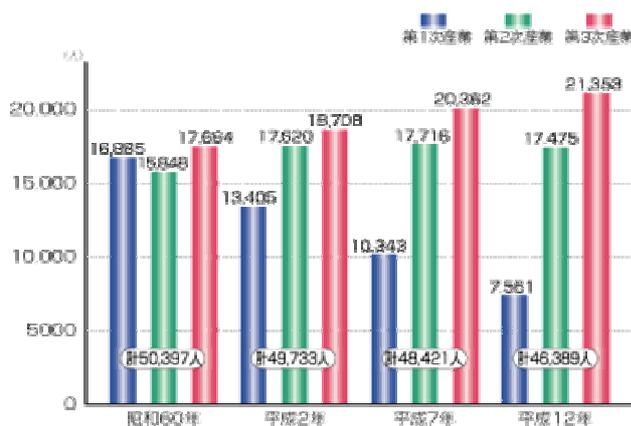
	年少人口 (0～14歳)		生産年齢人口 (15～64歳)		老年人口 (65歳以上)	
	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比
平成2年	20,010	20.4%	61,084	62.2%	17,136	17.4%
平成7年	17,030	17.6%	58,762	60.7%	21,040	21.7%
平成12年	14,023	15.0%	56,098	59.8%	23,648	25.2%
平成17年	11,797	13.2%	52,937	59.3%	24,579	27.5%
宮城県 (平成17年)	325,829	13.8%	1,558,087	66.2%	470,512	20.0%

資料：国勢調査

産業

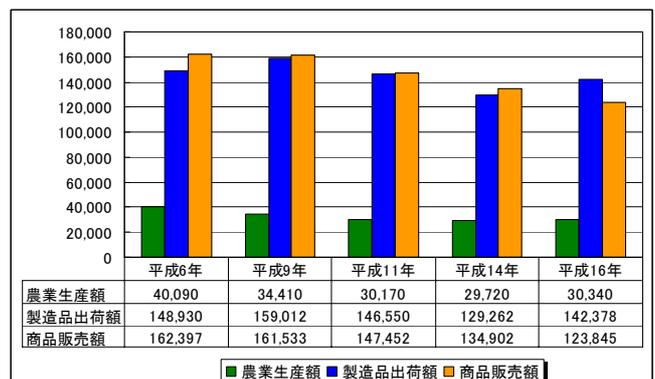
- 《第1次産業人口・農業生産額減少傾向》
- 《第2次産業人口横ばい、製造品出荷額減少傾向》
- 《第3次産業人口増加傾向、商品販売額減少》

登米市の産業別就業人口（15歳以上）の推移



- 就業人口資料：国勢調査
- 農業生産額資料：東北農政局統計部
- 製造品出荷額資料：工業統計調査
- 商品販売額資料：商業統計調査

登米市の主要生産額の推移

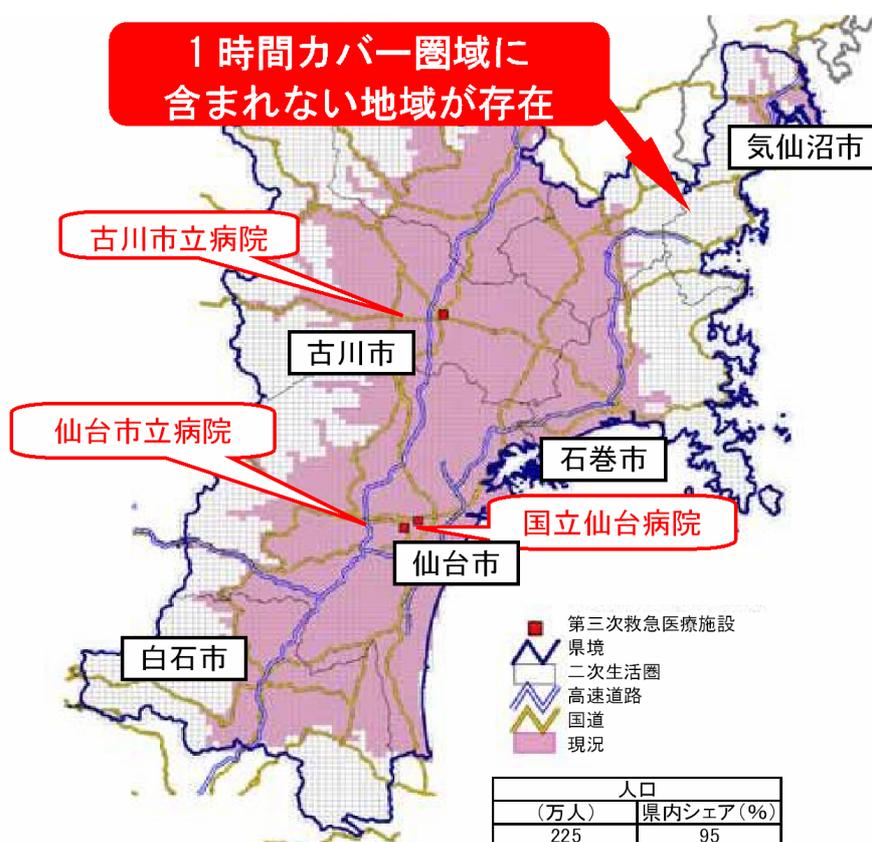


医療

《第三次医療施設から1時間カバー圏域に含まれない地域が存在》

《佐沼病院の小児科病棟と産婦人科病棟が縮小、医師不足が深刻化》

- ・市立佐沼病院に勤務する小児科医の確保が困難となり、診療は平日外来のみとなった。また、休日・夜間の救急診療は平成18年5月1日をもって休止、入院診療は平成18年5月12日をもって休止となった。
- ・小児科の入院診療は、5月18日に移転オープンした石巻赤十字病院や大崎市民病院（旧古川市立病院）などが担当することとなる。
- ・産婦人科は平成18年4月1日より1名の常勤医での診療体制となり、平成18年4月以降の手術や分娩の取り扱いについては制限されている。



平成14年度末の道路ネットワークを用いて解析

人口は平成12年度国勢調査を使用

▲第三次救急医療施設からの60分圏域（H14現況）（注）

注）救急医療における目標時間3時間以内（発症から治療開始まで）における搬送時間目標（60分）

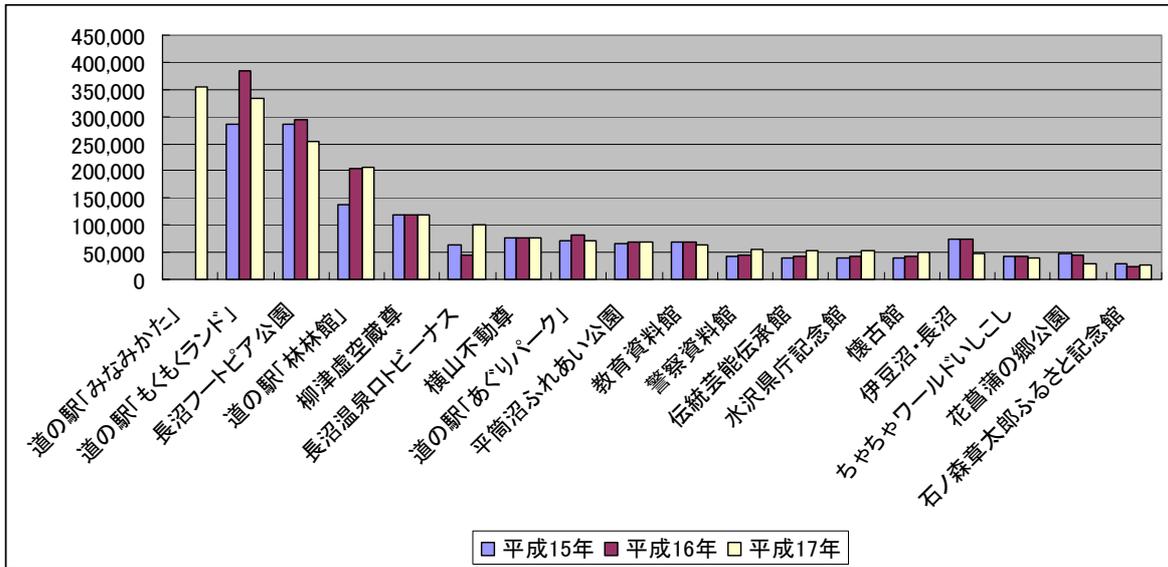
資料：宮城の道サービスの将来像

観光

《観光客、宿泊者数ともに増加傾向、宿泊観光客の約6割が県外から》

- ・観光客は10年間で54.9%増加しており、増加傾向が継続している。
(H8：約994,000人 - H17：約2,207,000人 = 約1,213,000人増)
- ・宿泊客は10年間で67.5%増加しており、増加傾向が継続している。
また、宿泊客全体の約60%が県外からとなっている。
(H8：約13,000人 - H17：約40,000人 = 約27,000人増)

市内観光地の来場客数



資料：観光動向調査

自家用車保有台数

《一人当たり、一世帯当りの自家用自動車保有台数率高い》

- ・市の自家用自動車保有台数は73,915台で、市民一人当たり0.81台、一世帯当たり2.81台となっており、他と比較しても高い割合を示している。

登米市：0.81台/人、2.81台/世帯

全国：0.62台/人、1.55台/世帯

東北：0.71台/人、1.99台/世帯

宮城県：1.67台/人、1.80台/世帯

資料：H17 各県の自動車保有状況

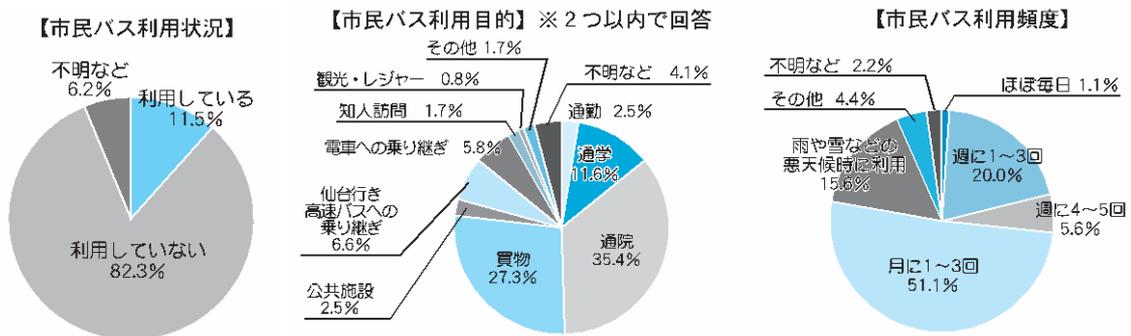
市バス利用状況

《月1～3回程度の利用が大半》

《自家用自動車保有 市民バスを使用しなくとも良い意見多い》

・市バスは、従来の公共交通バスにかわり平成17年10月から試験運行を開始し、平成18年4月から本格運行を開始している。

なお、乗車料金は100円となっている。



【市民バスを利用しない理由】

- ・自動車・バイクを所有、バスを利用しなくてもよいから 50.0%
- ・家族または知人に送迎してもらえるから 13.8%
- ・近くにバス停がないから 10.9%
- ・利用したい時間が合わないから 8.1%
- ・目的地への移動時間がかかり過ぎるから 5.5%

【どのように運行すれば利用するか】

- ・自分が必要とする目的地付近を経由すれば利用したい 10.8%
- ・運行便数を増やし、長時間待つことなく利用できるようになれば利用したい 10.2%
- ・目的別路線として路線の見直しを行い、移動時間が短縮されれば利用したい 5.3%

資料：市民バス利用状況アンケート

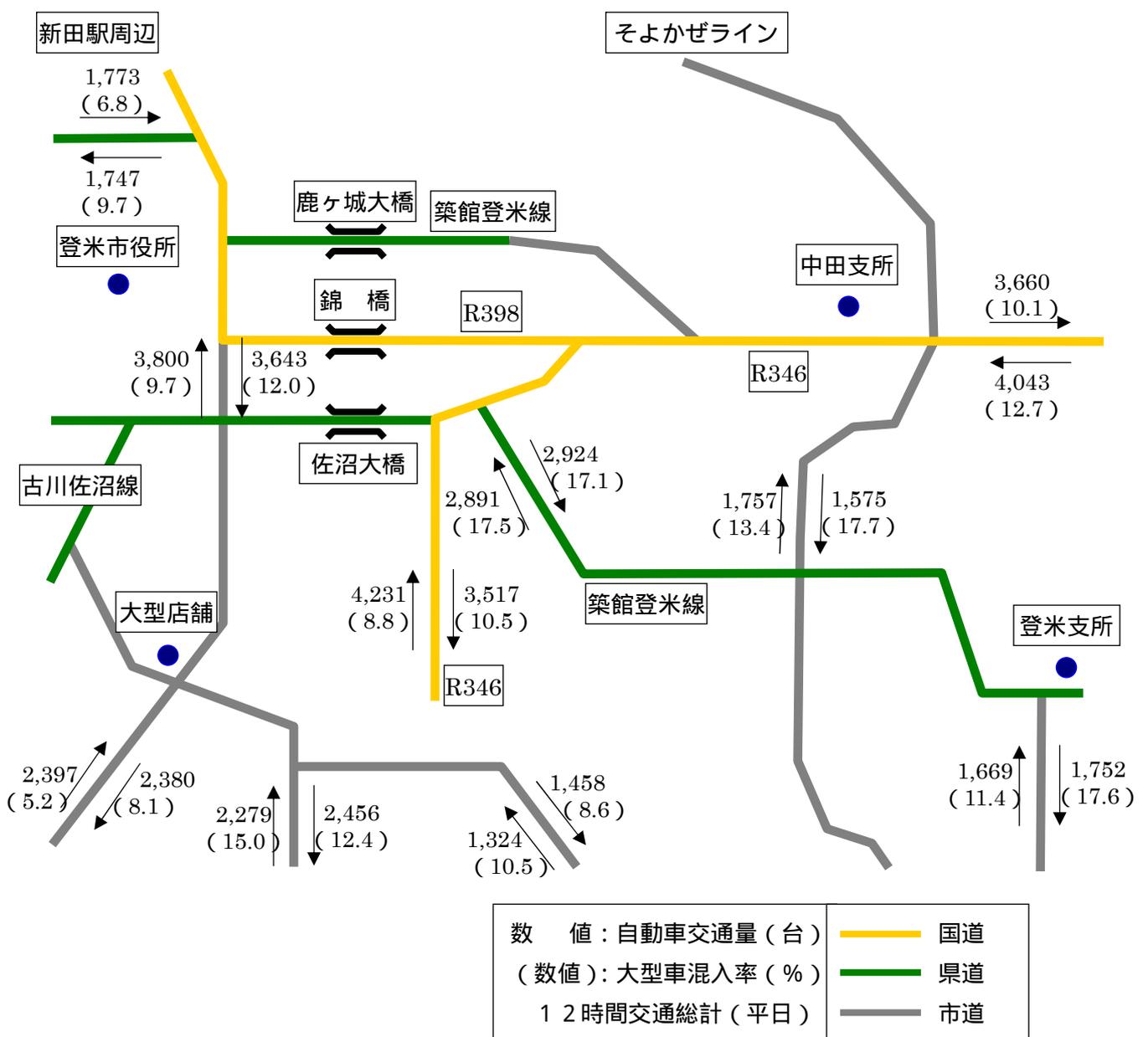
3) 交通実態調査

交通量調査

- ・平成17年度の道路交通センサスの補完調査として、センサス調査箇所以外の箇所で調査した。また、平成17年度に実施した事前調査の成果も併せて結果を示している。なお、道路交通センサスと同様の方法で調査を実施した。

〔調査結果の概要〕

- ・中心市街地（登米市役所周辺）に近づくにつれ、交通量は増加傾向にある。
- ・主要な市道と県道との交通量はほぼ同等であった。
- ・ピーク時間帯は、平日：午前7時30分～午前8時00分
休日：午後2時00分～午後3時00分であった。

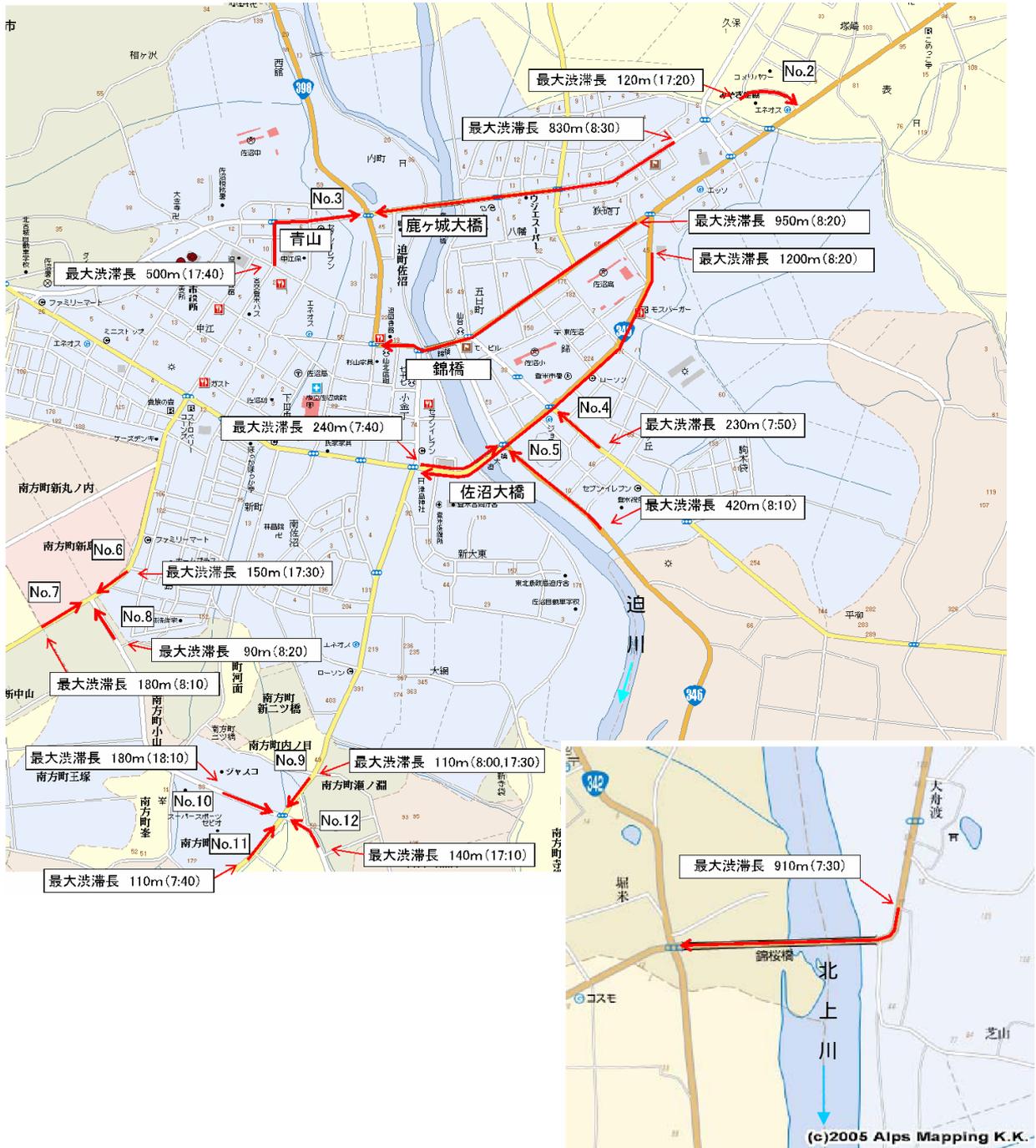


渋滞長調査

- ・交差点を起点として停止信号等に伴い後方につながる車両の最後尾までの延長を調査した。また、平成17年度に実施した事前調査の結果も併せて結果を示している。

〔調査結果の概要〕

- ・平日は、迫川に架かる3つの橋と、北上川に架かる錦桜橋で、朝のピーク時に830m～1,200mとなった。
- ・休日は、南方の大型店が立地している路線で330mとなった。



プローブ走行調査

- ・下図における区域（路線）を対象に、GPSを搭載した車両を用いて旅行速度を記録し、得られた車両情報を交差点毎に整理した。

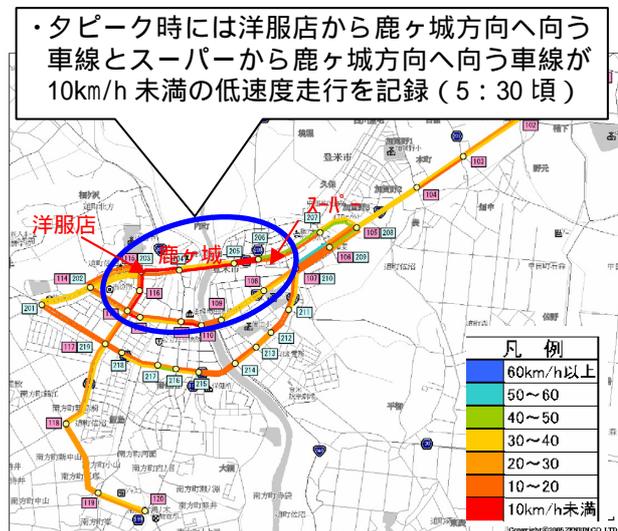
〔調査結果の概要〕

- ・平日午前中は迫川東側で速度の低下が見られ、また、迫川に架かる3つの橋周辺での速度低下が著しく見られた。
- ・平日午後は迫川西側で速度の低下が見られ、また、鹿ヶ城公園から市役所周辺までの間で速度低下が著しく見られた。
- ・休日は日中平均して南方の大型店が立地している路線で速度低下が見られた。

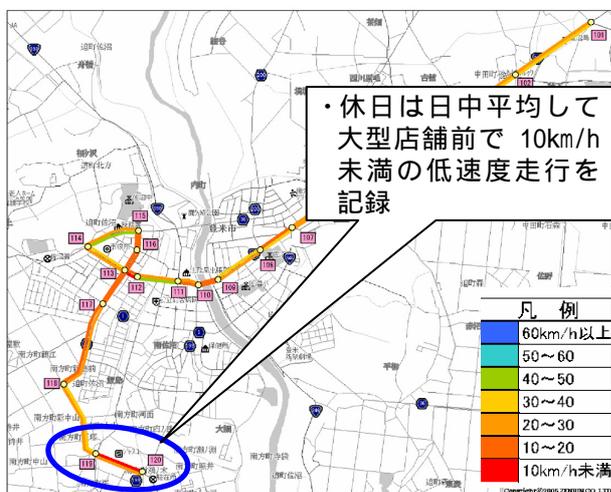
旅行速度（平日午前ピーク）



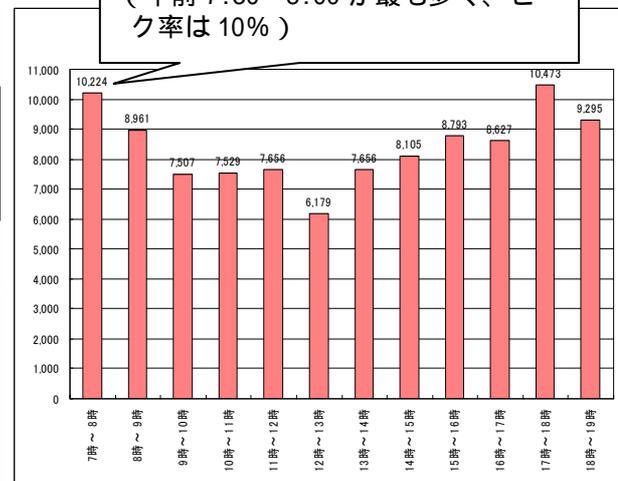
旅行速度（平日午後ピーク）



旅行速度（休日午後1時～午後5時）



・交通量のピーク時間とも一致（午前7:30～8:00が最も多く、ピーク率は10%）

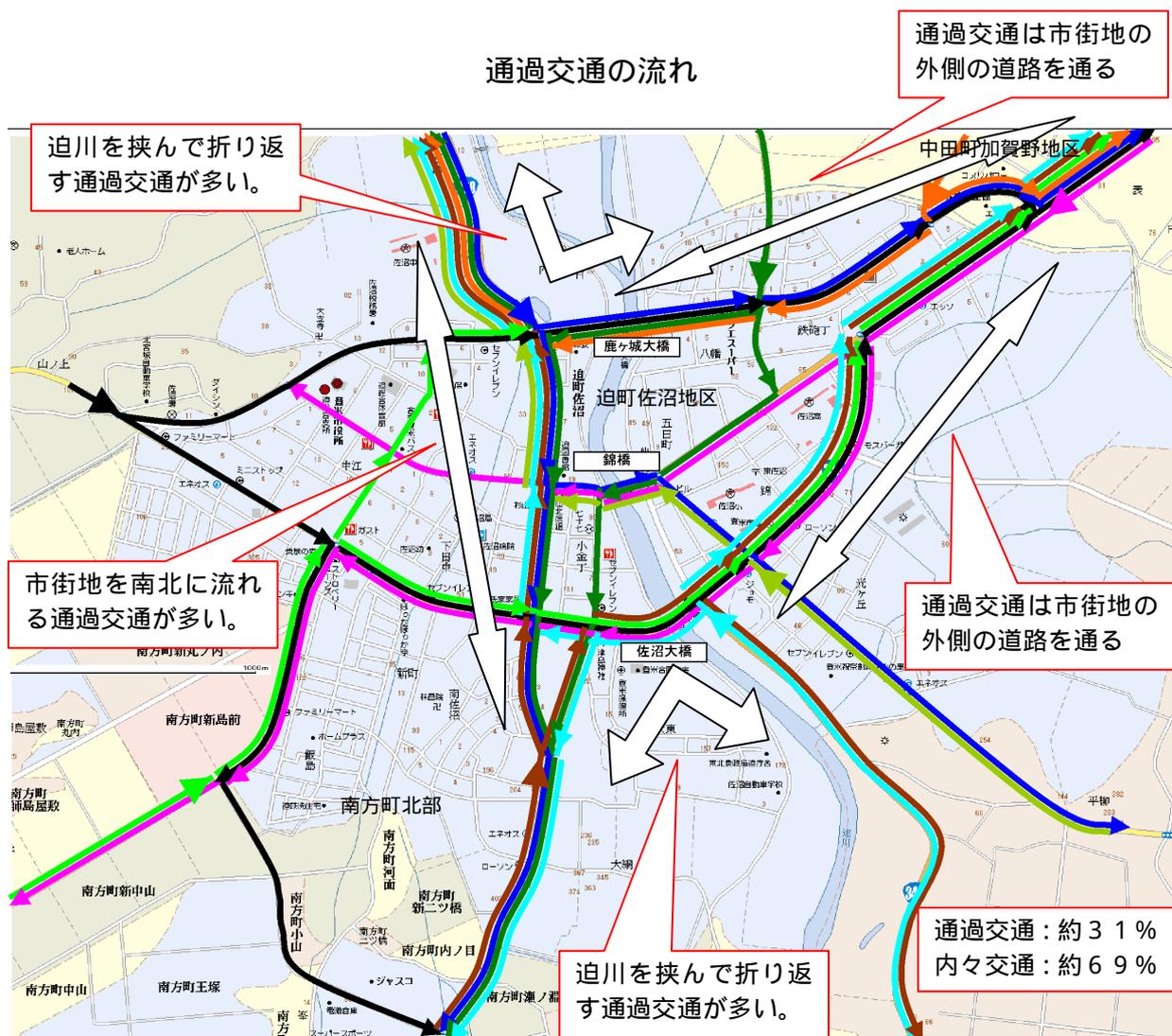


ナンバープレート調査

- ・調査日の午前7時～午前10時及び午後4時～7時の各3時間（合計6時間）の間、調査箇所を通過した車両のナンバープレートを調査し、通過車両の経路を明確にした。なお、対象区域を中心市街地（迫町佐沼地区、中田町加賀野地区、南方町北部）に限定し調査を実施した。

〔調査結果の概要〕

- ・市街地を南北に通過する車両が多く見られた。
- ・市街地に滞在した車両は約31%で、通過する車両は69%であった。
- ・調査箇所を通過した車両は20,166台（調査時間最終10分を除く）であった。



4) 市民アンケート調査

- ・公共交通の利用状況や日常よく利用する施設までの移動方法等に関するアンケート調査を実施した。
- ・対象者は16歳～90歳までの全市民から無作為に抽出した。
- ・配布数：1,983件、回収数：1,555件（回収率78.42%）であった。

〔調査結果の概要〕

鉄道利用について

- ・80.2%が利用しない
- ・2ヵ月程度に1回利用するが10.4%
- ・駅が遠い、本数が少ない、連絡が悪い、駐車・駐輪スペースがない、運賃が高い等の理由が挙げられた。

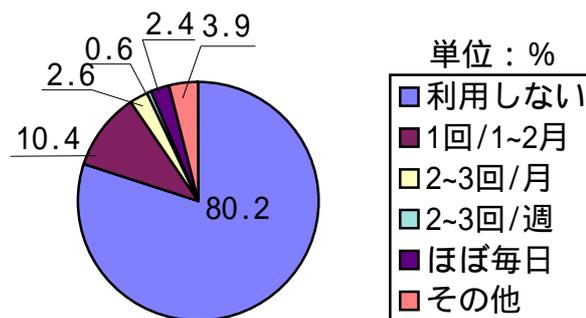
高速バス利用について

- ・70.2%が使用しない
- ・2ヵ月程度に1回利用するが13.8%
- ・バス停が遠い、時間に正確でない、本数が少ない、連絡が悪い、駐車・駐輪スペースがない、運賃が高い等の理由が挙げられた。

日常の移動手段について

- ・84.1%が自家用自動車を交通手段としている。
 - ・次いで、自転車の利用が見られるが6.4%にとどまっている。
- なお、「市バスの利用状況」については、4-2)- を参照。

【鉄道利用状況】



【高速バス利用状況】

